



「食のまち おおむた」で地域おこしに頑張る学生たち —地域の大人も子どももお年寄りもつながるつながる—

連載
おおむた自慢



おおむたの街を元気にしたい、地域のために自分たちもなにかやりたい——学生たちが、大牟田の「食」をテーマに様々な地域おこしの活動を展開しています。



今回は福岡県立ありあけ新世高校のてっぱん部のみなさんと、大牟田市立白光中学校のHAKKOクッキー社のみなさんの活動をご紹介します。

「地域のために、大牟田のために」

ありあけ新世高校 てっぱん部

「大牟田名物お好み焼きを通して、地域おこしを」と子どもたちのアイデアで動き始めた活動。今や、てっぱん部の活躍は有名になりました。学園祭や各地のイベントに出店していくなかで、「たくさんの地域住民の方や、協力していただく大人の人たちとの関わりができました」と生徒さん。「この活動をしていると、大人の人たちの地域にかけける思いが強いことを感じる」「てっぱん部だけが有名になればいいというわけじゃない」と他の高校や中学にも足を運び、いろんな企画を一緒にやろうと呼びかけもしています。

「地域のために、大牟田のためになにかしたいと思っている人はたくさんいると思う。自分たち高校生の活動



創立10周年記念文化祭でも大盛況!! (10月8日)



が、思いを行動に一步踏み出す勇気になればいいな」と話すてっぱん部のみなさんがまぶしかったです。

〈てっぱん部出店予定〉■11月3日 三池港浪漫フェスタ2012(三池港)
■11月10・11日 第44回大牟田ガスグループ・ガス展(大牟田文化会館)



MAX学盛祭でも限定クッキーを販売(8月19日 銀座通商店街)

「地域とのつながりを強め、よいまちづくりを」

白光中学校 HAKKOクッキー社

大牟田らしいクッキーを売って、大牟田市の活性化の役に立ちたい!と、生徒たちが、商品開発や販売を行い、その販売益を東日本大震災や7月の福岡県豪雨災害の義援金にあてています。プロの職人の協力を得ながらオリジナルクッキーの商品開発を行い、地域の福祉施設のおやつにも採用されるなど、子どもたちの活躍が地域を支えています。

「地域とのつながりを強め、よいまちづくりをしたいと思う。」大人へのエールでもあると思います。